

3. 学士課程教育の学び

3-1 全学共通科目

全学共通科目は所属学部の専門分野の枠を超えて全学部生が共通に求められる汎用的技能の育成を目的としています。

専門教育への単なる入門教育ではなく、本学学生であれば誰もが共通して経験し、幅広い視野や基礎的な知識を涵養するための学びとして、「課題探究」「情報・数理データサイエンス」「健康・スポーツ科学」「市民性と異文化理解」の4つの科目区分を設定しています。

全学共通科目の卒業要件単位は、「知の探研」（3単位）、「情報処理入門1」（1単位）、「数理・データサイエンスの基礎」（1単位）の必修科目を含む合計11単位が標準となっています。

「課題探究」

多様な志向を持つ学生同士で協力しながら、課題を見だし、課題解決に挑む姿勢と能力を獲得することを目的とします。

課題探究として履修する授業科目の「知の探研」は、全学生*が必修の科目です。科目名に含まれる「探研」には、高校での“探”究活動から大学における“研”究活動に向けた第一歩となる授業科目であるという意味が込められています。知の探研は、学生各々が行う第1学期の事前学修と、学生が集まって行うグループ活動を主とする第2または第3学期**の教室授業から成り、これら合わせて3単位を1年次に取り得します。

第1学期の事前学修では、教室授業に向けて必要となるスキルや態度などについて学びます。教材は「岡山大学 Moodle」で提供され、動画等の電子教材を用いて学生自身で学びを進めます。事前学修は、第2または第3学期における教室授業を履修する前提となっている内容ですから、必ず履修を終えることが求められています。入学時から「岡山大学 Moodle」を確認し、計画的に履修を進めるようにしてください。

第2学期または第3学期の教室授業では、グループ活動や個人活動、ミニレクチャーなどを通して、課題設定、調査・分析、発表・報告、振り返り等を経験していきます。学部が混在した100人のクラスごとに異なるテーマ（「探研テーマ」と呼びます）が設定されます。この100人のクラスを、専門分野の異なる教員がペアを組んで担当します。ペアとなった2名の教員は、それぞれがもつ専門的な視点から、探研テーマに沿い、かつ、グループ学修に適した題材（「教員テーマ」と呼びます）を提示します。この教員テーマによる活動は、100人のクラスを二つに分けた50人の小クラスにおいて実施されます。

「探研テーマ」を掲げる100人のクラスについては、学生の希望を参考に編成します。第1学期の事前学修を進める中で、あなたがどの「探研テーマ」クラスを希望するかについて調査を行います。Moodle内の指定された期日までに必ず回答するようにしてください。

注) * GDP 学生を除く。GDP において代替科目が英語で開講されます。

** 学生番号末尾が偶数の学生は第1学期と第2学期を受講します。

学生番号末尾が奇数の学生は第1学期と第3学期を受講します。

「情報・数理データサイエンス」

大学教育における研究や教育をはじめ、社会人として必須である情報リテラシー技術やICT（Information & Communication Technology）活用能力を修得します。また、今日、情報通信技術の普及により大量のデータが収集・蓄積されていますが、それらは活用されなければ意味をもつ情報とはなりません。このようなデータを対象とする学問分野がデータサイエンスです。数理データサイエンスでは、データの収集・加工・分析に必要なプログラミングスキルや統計的手法、AIや機械学習の初歩、さらに可視化方法を修得します。

1) 情報教育科目

「情報処理入門1（情報機器の操作を含む）」「情報処理入門2（情報機器の操作を含む）」「情報処理入門3（情報機器の操作を含む）」では、情報化社会においてインターネットを有効に活用するための知識、情報セキュリティ被害にあわないためのセキュリティ対応能力、個人情報漏洩防止の

3. 学士課程教育の学び

ための知識などの幅広い情報リテラシー能力と正しい情報マナーを身につけることを学びます。

上記の科目は、授業における課題の提供や小テストの実施、事前、事後の学習に授業支援システム“Moodle”を利用します。また、すべて実習を伴い、個人所有のPCを使用します。

情報教育科目のうち、「**情報処理入門 1（情報機器の操作を含む）**」は全学必修科目です。この授業科目は、あらかじめ学部（学科・課程）によってクラス分けを行って開講します。指定以外のクラスを履修することはできません。単位を修得できなかった場合の再履修は、1年次の第4学期に1クラス開講しますので指定時間に再履修してください。

これらの情報教育科目「情報処理入門 1」「情報処理入門 2」「情報処理入門 3」は教職課程で必須の科目であり、最低2科目、2単位の取得が必要になります。

また、情報教育科目を発展した、より高度な技術を学習し、インターネットの安全・安心な活用、情報機器の効率的な活用のための知識を修得する科目もあります。

2) 数理・データサイエンス科目

数理・データサイエンス科目のうち、「数理・データサイエンスの基礎」は、現代の基礎教養として欠かせない情報学・統計学・数理科学の3つを体系的に学ぶためのものであり、授業では、データサイエンスの基盤となる統計および数理の基礎と、データサイエンスの応用事例を修得し、さらに機械学習の概念を学んで、データサイエンスの果たす役割を概観します。この科目に関連した「数理・データサイエンスの基礎演習 A」では実際にソフトウェアを利用し基礎で学んだ概念を学びます。また、「データ表現とアルゴリズム」ではデータサイエンスに必要な数理的な知識、アルゴリズムの基礎知識についてソフトウェアを利用しながら学びます。

さらに「統計学の基礎」と「データ分析の基礎」が開講されており統計学の基礎を学びます。また、「数理という道具を手に入れよう」では、数学がどのように有用な道具になりうるかを体験的に学びます。

数理・データサイエンス科目のうち、「**数理・データサイエンスの基礎**」は全学部の必修科目で、あらかじめ学部（学科・課程）によってクラス分けを行って開講します。指定以外のクラスを履修することはできません。

なお、数理・データサイエンス AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル及び応用基礎レベル）については、41ページに記載しています。

「健康・スポーツ科学」

生涯にわたる健康づくりとスポーツ実践力を養います。

1) 健康・スポーツ科学科目

「健康・スポーツ科学」は抽選があり、1～4学期に指定された時限で開講します。本授業は教育職員免許状取得のために必要な科目です。

「健康・スポーツ科学C」は抽選がなく、通年で月1回（計8回）、水曜日10、11限に開講するオムニバス形式の授業です。本授業は教育職員免許状取得に関係しません。

2) スポーツ演習科目

「するスポーツ演習」は、通常時間帯のスポーツ実技に加えて、各自がMoodleを活用した学びから運動プログラムを作成し、授業以外においても運動を実践する授業です。本授業は教育職員免許状取得のために必要な科目です。

「みるスポーツ演習」は、みるスポーツに関わる調査研究テーマを履修者が設定し、テーマに基づきグループを編成し、調査計画を立案し、実際に調査に出かけ、報告書をまとめます。

「支えるスポーツ演習」は、特定の高校において運動部活動の指導・支援をおこなう実践型科目です。履修希望者は初回のオリエンテーションに必ず参加してください。

3. 学士課程教育の学び

「市民性と異文化理解」

多様な価値観・多様な文化的背景をもつ人々で構成される現代社会のなかで、他者と協働しつつ自己実現を図るために必要な知識と能力を養います。また、世界の多様な文化について知見を広め、自分たちとは異なる文化圏の人々とも、粘り強く対話を重ねながら相互理解を目指す態度を培います。

1) 実践知科目

地域社会の企業、行政、NPO、まちづくり等が直面する様々な課題を取り上げ、その解決のために必要な実践知（市民的教養に裏付けられた判断力、リーダーシップ、チーム力、責任・気概）を養います。実社会の様々な関係者と協働して活動し、問題発見や解決のための技能や態度、素養を培うことができます。

学外の現場での活動を実施する場合、時間割に設定されていない時間帯（土日祝など）に授業時間を振り替えたり、学外での正課活動に関する保険への加入を履修要件としたりしていることがあるので留意してください。また、グループワークを重視する科目では、一定人数の受講登録がなければ閉講になることがあります。現場で受け入れてくれる関係者、チームのメンバーに迷惑がかからぬよう、最後までやり抜くことが重要です。

<科目のタイプ分け>

実践知科目は、その内容によりいくつかのタイプに分けられます。タイプ分けは、1) 社会連携した実践活動の度合い（それに充当する時間数など）、2) その科目の学習環境がグローバルであるか、で判断します。

次表のとおり、全授業時間のうち現場での実践活動の時間の多いものが「Aタイプ」、少ないものが「Bタイプ」となり、さらに、学修する環境が外国や、国内であっても外国人コミュニティで学ぶといった異文化体験の深さにより、A及びBにG（グローバル）またはG+を冠しています。A、B及びG、G+の組み合わせにより、以下に示す①から⑦のタイプがあり、シラバスの授業形態欄に明記されています。タイプの特性を理解したうえで履修計画を立ててください。

◆ シラバスの「授業形態欄」には、以下のいずれかが表示されています。

「該当せず」

- ①Aタイプ（社会連携の実践活動が授業の1/3以上と多い）
- ②Bタイプ（社会連携の実践活動を一部取り入れている）
- ③G+Aタイプ（学修環境として外国や外国人コミュニティ等に行くAタイプ）
- ④G Aタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するAタイプ）
- ⑤G+Bタイプ（学修環境として外国や外国人コミュニティ等に行くBタイプ）
- ⑥G Bタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するBタイプ）
- ⑦Cタイプ（実習や演習として実践的だが社会連携したものではない）

表. タイプ分けの基本

判断基準	記号	解 説
社会連携した実践活動の度合い	A	a) 地域や企業等の現場に出向き、 b) その時間数が全授業時間数の1/3以上 c) 成果報告会を開催する（学外の関係者が参加し、授業自体の評価をすることが望ましい） の3条件を満たす。
	B	地域や企業等の現場に出向く、または現場の課題を抱える当事者とのディスカッション等の活動が1回以上ある。ただし、単に外部講師が講義するだけの授業は対象としない。
学修環境としてのグローバル要素の付加	G ⁺	社会連携して学修する現場が外国または国内の外国人コミュニティであるなど、異文化の環境に深く入っていく授業。
	G	留学生と日本人学生が協同することにより異文化理解を進めつつ学ぶ授業、海外とのオンライン会議など多言語で討論が行われる授業など。

3. 学士課程教育の学び

2) 芸術知科目

優れた芸術作品の能動的な鑑賞やアート創造の現場への参加等を通して、創造性と豊かな感性を養います。既存の思考パターンや価値観が通用しない現代社会の諸課題に対処する際に拠りどころとなる、一人ひとりの内在的価値基準や倫理観を培うことができます。

3) 市民性教育科目

グローバル化の進展とともに急激に変貌する現代社会の具体的実像に触れ、幅広い視野で社会関係をとらえるために必要な知識を養います。また、価値観の多様化した社会のなかで自己実現を図るための知識・能力を培います。市民性教育科目では、現代社会の諸事象を多角的な視点から考察するために必要な政治・経済・文化・思想・宗教等の分野の基本的知識に加えて、社会人としてキャリアを形成していくために必要な知識や能力を身につけることができます。

市民性教育科目には、学生生活を充実させるとともに、社会人になるうえで必要な知識・能力を修得するためのキャリア教育や、自分で論理的に思考したことを書くことで表現するコミュニケーション能力を養うことを目的としたアカデミック・ライティングなどの科目も含まれます。また、市民性教育科目のうち、「日本国憲法」は教育職員免許状取得のために必要な科目で、2単位の取得が必要になります（法学部を除く）。さらに、高等学校教育と大学教育の円滑な接続を図るための補習教育科目も含まれます。

<補習教育>

高等学校において数学Ⅲ、物理、生物の未履修者及びこれらの科目の習熟度に不安を感じている方を対象に、「初等数学1」「初等数学2」「初等物理学1」「初等物理学2」「初等生物学1」「初等生物学2」の6科目を**補習教育科目**として開講します。これらの科目は卒業要件単位外の授業科目として取り扱うため、GPA制・上限制の対象とはしませんが、授業の効果を検証するために授業評価アンケートの対象とします。

4) 言語文化科目

世界の様々な言語の学習を通じて、自分たちとは異なる文化への興味・関心を育み、文化の多様性への理解を深めるとともに、どのような文化的背景をもつ相手とであっても、コミュニケーションを放棄することなく、協力して物事を成し遂げようとする姿勢を培います。

言語文化科目には、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語等）の知識と基礎的運用能力を身につけ、日本や英語圏とは異なる国々の文化に対する理解を深める初修外国語授業、日本語を母語としない留学生等を対象とした各種日本語授業があります。

英語以外の外国語では、7つの言語が開講されています。

ただし開講形態の違いから、以下のようにA群とB群の二つに分かれます。

A群	ドイツ語、フランス語、 中国語、韓国語	初級クラスは、1年次生を対象に週1回（月または木） 開講
B群	ロシア語、スペイン語、 イタリア語	全学年を対象に週1回（月、火、金のいずれか）「ベ シック」を開講

・初修外国語（A群）

1) 初級

ア. 初めて履修する場合は、授業時間表の「履修対象の学部、学科等」欄およびシラバスの指示に基づいて、原則として第1学期から第4学期まで同一クラス、つまり同一科目・担当教員の授業科目（第1学期＝初級Ⅰ-1、第2学期＝初級Ⅰ-2、第3学期＝初級Ⅱ-1、第4学期＝初級Ⅱ-2）を履修してください。

なお、1年次生を対象に4月に履修希望調査を行います。第1学期に開講される科目はそれに基づきクラス分けを行いますので、履修を希望する新入生は必ず履修希望調査に参加してください。履修希望調査に参加しないと、履修ができない場合があります。【履修希望調査への参加方法等については動画にてオンデマンド配信】

イ. 2年次生以上が「初級」授業の履修を希望する場合には、火曜日又は金曜日に開講される「初級」授業を履修してください。火曜日又は金曜日に開講される科目は事前のクラス分けを行いますので、直接履修登録をすることができます。

3. 学士課程教育の学び

ウ. ドイツ語初級、フランス語初級及び中国語初級では週 1 回行われる「会話」の授業を、第 1 学期～第 4 学期に 1 科目ずつ開講しています。この授業は基本学習に対する発展的補足学習の意味を持ちますので、それぞれの学期において同じ語種の授業を同時履修する学生、或いは既に履修済みの学生のみが履修可能です。

2) 中級 ※ 同一科目の繰り返し履修可

1 年次生でも、授業担当教員と相談の上、履修することができます。

履修を希望する者は、初回の授業に出席して、担当教員から履修の許可を受けてください。

・初修外国語（B 群）

ベーシック

ア. 開講曜日・時間帯は次の通りです。

ロシア語ベーシック 1～4 : 火曜 3 限・4 限

スペイン語ベーシック 1～4 : 月曜 7 限・8 限

イタリア語ベーシック 1～4 : 金曜 7 限・8 限

イ. 再履修（一度履修したが、単位修得できなかった）の場合には、翌年度の同一授業科目を履修して下さい。

・日本語

履修について不明な点がある場合は、所属学部の教務学生担当窓口を確認してください。

外国人留学生及び特に必要と認められた学生以外は履修できません。

3-2 英語科目

岡山大学の学士課程で学ぶ英語科目は、英語力の育成はもちろんのこと、大学卒業後も英語学習を継続できるように、自律的に英語を学習する習慣を身につけることを目標にしています。そのために、1・2 年次だけでなく、3 年次以降も英語を継続して学習できるような設定になっています。また本学の英語教育では、授業外学習や学習環境の充実にも力を入れています。

●英語外部検定試験について

英語力の伸長を測定するため、1 年次（4 月上旬）に Linguaskill（4 技能）を、3 年次（時期は別途連絡）に TOEIC L&R テストを実施します。この二つの検定試験を必ず受験してください。特に 1 年次に受験する Linguaskill のスコアは、必修英語科目のクラス編成に必要です。

●各科目について

1 年次第 1 学期の最初の授業では、「オリエンテーション」を実施します。オリエンテーションでは、本学の英語教育体制についての説明があります。また、学生は自身と英語との今後の関係について考えます。

以下、低年次（1～2 年次）と高年次（3 年次以降）に学ぶ英語授業に分けて説明します。

1) 低年次に履修する必修英語

○ 1 年次に履修する科目：各 2 単位、合計 4 単位履修します。

「コミュニケーション英語（S&L）」：日常生活など一般的な内容から SDGs などの時事問題等、幅広い内容に関してのスピーキング力やリスニング力を養成するクラスです。最終的には、英会話やディスカッションに積極的に参加できるようになることを目指します。授業外学習として English Central を活用します。

「コミュニケーション英語（R&W）」：日常生活など一般的な内容から SDGs などの時事問題等、幅広い内容に関してのリーディング力やライティング力を養成するクラスです。最終的には、英文を読みながらその要点を理解できたり、短い英文エッセイを書いたりすることができるようになることを目指します。授業外学習として多読等を行います。

3. 学士課程教育の学び

○2年次に履修する科目：各2単位、合計4単位履修します。

「**アカデミック英語（プレゼンテーション）**」：アカデミックな内容で、ディスカッションやプレゼンテーションを行うクラスです。グループディスカッション等を通して思索を深化させ、最終的には（クラスのレベルに応じて）4分から10分のプレゼンテーションを行うことを目指します。

「**アカデミック英語（ライティング）**」：アカデミックな内容で、英文エッセイを書くクラスです。文献やインターネット等を利用して情報を収集し、「イントロダクション・ボディ・コンクルージョン」という形式の整った英文エッセイを作成します。最終的には（クラスのレベルに応じて）500ワードから1000ワードの英文エッセイを書くことを目指します。

2) 高年次に履修する選択英語

○原則として、3年次以降に希望の科目を選んで1単位履修します。

「**高年次英語**」：内容は、アカデミックプレゼンテーション、アカデミックライティング、ビジネス英語、オンラインクラス、TOEIC対策（演習）、TOEIC対策（解説）、英会話等、多岐に渡ります。原則として自分の学習したい内容のクラスを自由に選択し、履修できますが、学部学科によっては、履修する時期及び時間帯、また授業内容について指定されているところもあります。

3) 1年次から4あるいは6年次に履修できる選択英語

「**SPAcE 英語**」：グローバル人材育成特別コース生のための特別クラスです。取得した単位は、卒業要件単位には含まれませんが、グローバル人材育成特別コースの修了要件になります。

「**キャリアパス英語**」：留学を目指して TOEFL や IELTS の対策をしたい学生、就職や進学を目指して TOEIC 対策を希望する学生、また、英語力向上のために英語学習を継続したいと考える学生のための科目です。なお、取得した単位は卒業要件には含まれません。

英語科目の履修スケジュール（例）

年次・期		科目名
1 年次	第1・2 学期	コミュニケーション英語（S&L）
	第3・4 学期	コミュニケーション英語（R&W）
2 年次	第1・2 学期	アカデミック英語（プレゼンテーション）
	第3・4 学期	アカデミック英語（ライティング）
3 年次～ 6 年次	各学部学科の指示に従ってください。	高年次英語

注：3年次以降に「高年次英語」の他に、専門教育科目として、各学部学科の教員による「英語で学ぶ専門科目」を履修します。詳細は、各学部学科で確認してください。

3-3 専門教育科目

1. 全学交流科目

全学交流科目は他学部学生を対象に、様々な専門領域を志向する学生が混在して履修することを想定した授業内容になっています。学生は他学部の開講科目を履修し、自身の専攻と異なる学問分野に触れることで、自身の志向する専門領域の学びに活かせるような気付きを得るとともに、各学生の専門の枠組みを超えた幅広い知識の「理解と適用」を目指します。自身が所属する学部開講の科目は履修できませんので注意してください（医学部については学科単位で考えますので、医学部医学科生が医学部保健学科の科目を、医学部保健学科生が医学部医学科の科目を履修することは可能です）。なお、全学交流科目の中に次の3つのグループを設定しています。全学交流科目全体の卒業要件単位数は4単位で、各グループの卒業要件の内訳は学部学科ごとに決められています。

3. 学士課程教育の学び

「社会系交流科目」

文学部、教育学部、法学部、経済学部が開講する全学交流科目です。

「生命系交流科目」

医学部医学科、医学部保健学科、歯学部、薬学部が開講する全学交流科目です。

「自然系交流科目」

理学部、工学部、農学部、教育学部（理系）が開講する全学交流科目です。

2. 専門基礎科目・専門科目

専門基礎科目では、自身の専門を積み上げていく上で土台となる知識や技能など、必須の基礎を学びます。専門科目は学部の専門性に基づいた科目で、それぞれの分野に特化した専門的かつ実務的な知識や技能を身に付けます。

また、学士課程4－6年間を通じた英語教育を実施するため、「英語で学ぶ専門科目」を専門教育科目の中に設けています。

※専門基礎科目・専門科目については、所属学部等の「学生便覧」等で詳細を取り扱います。